

沖野皓一さん追悼

写真は東海ジャーナリスト 2017 年 5 月 23 日、臨時特別号「沖野皓一さん追悼」。冒頭にジャーナリスト遠藤雄久さんが生き生きとした「沖野像」を描いている。—2017 年 3 月 12 日早朝、沖野皓一さんが亡くなりました。享年 82 歳。1959 年 NHK にアナウンサーとして入局、初任地は北海道北見局。以後、長野 (62 年)、岡山 (67 年)、名古屋 (74 年)、沖縄 (78 年)、福島 (81 年)、富山 (85 年)、名古屋 (90 年) の 8 放送局を異動して、1991 年退職。



見出しから一ニがい原点「神国日本の少年」、ジャーナリストとしての闘い、「沖野行くところ争議あり」、「争議のデパート」名古屋へ、沖縄では夫婦で民話資料作り、大学教授、そして 44 カ国巡る旅。 おわりに一畏友沖野皓一さんの生涯を手持ちの資料を頼りにつづってみての感想は「なんと豊かな人生！」の一言に尽きる。その豊かさが私たちに勇気づけ、楽しませてくれたことに「ありがとう」を言いたい。その豊かさを共に作り、生きてこられたかよ子さんにも「ありがとう！」

沖野さんとは、あまり長い付き合いではなかった。私が東海ジャーナリスト会議の人たちと一緒に「8 月名古屋集会」などの活動した頃、沖野さんは沖縄・福島などで勤務されていた。沖野さんで思い出すのが温かみのある存在感、よく通る声のアナウンサー。プロとしての力量を感じさせた。この追悼集からジャーナリスト沖野さんの歩み、平和への思いを知ることができた。2 年前の「8・15」でお会いしたのが忘れられない。

追悼集に収録されている今年の年賀状の文面は「戦争の語り部として生き抜く」決意宣言でもある。途中まで紹介したい。

「お国のために、国民の安全のためにという言葉で飾られた政策が次々に国会を通り、世論調査での安倍内閣の支持率は 50%前後の高さを保っています。しかし、安倍内閣が具体的にやろうとしていることは、自衛隊の駆け込み警護という名の海外派兵、集団的自衛権の容認。原発の再稼働推進、沖縄の米軍基地の拡充、マスメディアへの介入、脅し。武器輸出の規制緩和、歴史教育の改竄、大学の軍事研究への資金投入。それらがすべてお国のために正しい選択であるという宣伝の徹底。そして NHK のテレビニュースはそれらの施策を無批判に報道し、その本質に疑問を持たせない役割を果たして来ました。戦前の世論が政府の軍事大国化と海外進出を支持するようになったのと同じ道を辿らせようと。……」

(2017 年 6 月 5 日)